

**令和2年度  
活動提案事業報告資料**

**令和3年7月10日**

# イベント報告書

2020年8月15日(土)

団体名	いかるが子どもの遊び場作りの会	報告者	平川理恵、萩原有紀
-----	-----------------	-----	-----------

## (1) イベント概要

件名	8月の斑鳩プレーパーク
目的	子どもたちが自発的に考えて遊ぶことのできる場所を提供し、子どもたちの生きる力を育む。他団体とコラボすることで、子どもたちの興味や関心が広がるきっかけづくりをする。
実施日時	2020年8月15日(土) 15:00~18:30
対象	小学生※未就学児同伴の場合、保護者による見守りが必要。終了時間が遅いためお迎え必須。
スタッフ	木谷、中村、萩原、林田、平川、堀(あいうえお順、敬称略)
コラボ	竹工作同好会(猟友会からの派生団体): 打田さん、福井さん、森川さん
場所	東洋シールキャンプ場

## (2) 報告事項

報告や感想など
<p>スタッフは14時に集合して遊び場の設営(具体的には、水遊びの水路と水路を支える脚の製作や、暑さ対策のテントの設置など)をスタート。</p> <p>15時の開門前から、続々と子どもたちが集まり、70名以上が参加。</p> <p>【当日の流れ】</p> <p>15~16時: 竹工作同好会ご指導のもと、プレーパーク内の竹を切って水鉄砲づくり(希望者のみ)</p> <p>16~17時: 水鉄砲での的当てゲームなど</p> <p>17~18時: 自由遊び</p> <p>18時~花火をして18時半に解散</p> <p>【当日の様子】</p> <p>別紙参照</p> <p>【新型コロナ感染症拡大防止策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・これまで3小学校全児童全てにチラシを配布し活動を周知していたが、今回は開催場所に最も近い東小学校のみにチラシを配布することで人が集まり過ぎないようにした。</li><li>・自宅で検温してきてもらい、37.5℃以上の発熱や体調不良のある場合に来場を控えるよう呼びかけた。</li><li>・参加者名簿で名前と連絡先を把握した。</li><li>・飲食の提供は原則中止とし、途中、暑さ対策を兼ねて「チューペット」を配布した。</li><li>・子ども同士が接近しすぎないように注意した。</li></ul> <p>【参加者の声】</p> <p>「今年はコロナで帰省ができなかったもので、このようなイベントがあって助かった。」(斑鳩町、保護者)</p> <p>「去年やった流しそうめんを楽しみにしていたから残念だった。」(斑鳩町、小学生)</p> <p>「水遊びがたくさんできて気持ちよかった。」(斑鳩町、小学生)</p> <p>「このような広い場所ならコロナ渦でも密にならずに遊べていいと思う。」(斑鳩町、保護者)</p> <p>などなど</p>
備考
<ul style="list-style-type: none"><li>・暑さ対策について</li></ul> <p>→連日異常な暑さが続いていたため、コロナ対策だけでなく熱中症対策にも力を入れた。具体的には、水分摂取の声かけをしながら、ミストシャワーや水遊びなどで体を冷やす工夫をした。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・安全対策について</li></ul> <p>→奥のエリアに目が行き届かなくなりがち。今回は保護者に見守りをお願いしたが、安全対策を万全にするにはボランティアスタッフの増員が望ましい。</p>

## 【8月の遊び場の様子】



プレーパーク入口からの風景

周知活動を控えたものの70名以上が参加してくれました。  
東洋シールキャンプ場はとても広いので、多数の参加者にもかかわらず密を避けながら遊ぶことができました。



例年、夏のプレーパークは時間を後ろにずらして開催しますが、夕方暑いままで、斑鳩プレーパーク史上最高の暑さに！  
プールに水を張って足をつけたり、ミストシャワーをまいたりして暑さを和らげる工夫をしました。シャワーで出る虹がキレイ！



竹工作同好会の皆さんが子どもたちに竹の水鉄砲の作り方を教えてくれます。子どもたちの列が途絶えませんでした。  
竹の太さやスポンジの巻き方など微妙な調節によって、よく水が飛ぶ水鉄砲が完成します。



手づくりの水鉄砲を使って、的（金魚すくいのポイ）をめがけて撃ちます。ポイが破れたら子どもたちが自ら交換してくれます。  
100個準備した的は1時間も経たないうちに無くなりました！



締めは恒例の花火。

手持ち花火は自然とソーシャルディスタンスが保たれます。  
最後に吹き出し花火を連続着火して拍手で解散。  
今年の夏休みは異例の短さでしたが、今日という日が子どもたちにとって楽しい思い出となれば、スタッフ一同嬉しい限りです。

以上、いかるが子どもの遊び場づくりの会による8月の斑鳩プレーパークの開催報告でした。

ボランティアスタッフのみなさま、そして竹工作同好会のみなさま、ご協力ありがとうございました！

# イベント報告書

2020年12月12日(土)

団体名	いかるが子どもの遊び場作りの会	報告者	平川理恵、萩原有紀
-----	-----------------	-----	-----------

## (1) イベント概要

件名	12月の斑鳩プレーパーク
目的	子どもたちが自発的に考えて遊ぶことのできる場所を提供し、子どもたちの生きる力を育む。他団体とコラボすることで、子どもたちの興味や関心が広がるきっかけづくりをする。
実施日時	2020年12月12日(土) 13:00~16:00
対象	小学生※未就学児同伴の場合、保護者による見守りが必要。終了時間が遅いためお迎え必須。
スタッフ	木谷、瀧本、中村、萩原、平川、古川、堀(あいうえお順、敬称略)
コラボ	つくる暮らしの会(斑鳩町協働のまちづくり活動提案事業団体)
場所	東洋シールキャンプ場

## (2) 報告事項

報告や感想など
<p>9時に開門し、スタッフはフィールド整備をスタート。北側エリアにアライグマの罠を仕掛けていることから、立入禁止措置などの安全対策を講じた。</p> <p>12時過ぎから子どもたちが集まりはじめ、延べ100名ほどが参加。</p> <p>今回は、「つくる暮らしの会」さんとの初コラボ！</p> <p>また、JICA出身の古川氏による「ネイチャーゲーム」も同時開催！</p> <p>【当日の様子】 別紙参照</p> <p>【新型コロナ感染症拡大防止策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自宅で検温してきてもらい、37.5℃以上の発熱や体調不良のある場合に来場を控えるよう呼びかけた。</li><li>・参加者名簿で名前と連絡先を把握した。</li><li>・受付でマスク着用(※鬼ごっこなどの運動時には適宜オフ)とソーシャルディスタンスを呼びかけた。</li><li>・飲食の提供(量と時間)を最小限とした。</li><li>・子ども同士が接近しすぎないように遊びの仕掛けを工夫した。</li></ul> <p>【参加者の声】</p> <p>「斑鳩町には焚き火ができる場所がないので、火を囲めることが嬉しい。」(斑鳩町、保護者)</p> <p>「東小学校の友達とプレーパークで待ち合わせしていたけど来なかった。代わりに斑鳩小学校の友達ができ嬉しかった。」(斑鳩町、小学4年男子)</p> <p>「おやつがあるのが嬉しい。ごへいもちを初めて食べたけど美味しかった。」(斑鳩町、小学2年女子)</p> <p>「コロナ感染症が増えてきているので屋外での遊びは安心。」(斑鳩町、保護者)</p> <p>などなど</p>

### 改善点など

<ul style="list-style-type: none"><li>・駐車スペースについて →キャンプ場内の駐車スペースが満杯になったときに備え、橋本建設さまの駐車スペース(3~4台分)を事前に確保したが、結局は駐車スペースが満杯になることはなかった。「なるべく徒歩か自転車で」をよびかけ、参加者のみなさんに協力していただいた結果だと思う。</li><li>・安全対策について →北側エリアに目が行き届かなくなりがち。今回はアライグマの罠を仕掛けていることもあり余計に心配したが、チラシを見て来てくださったボランティアさんが北側エリアを重点的に見回ってくださったおかげで安全に運営できた。</li><li>・コロナ対策について →飲食時はマスクを外すことから、特に予防対策が必要となることを再認識した。</li></ul>
---

## 【12月の遊び場の様子】



開場前。看板設置の様子。

2年前、プレーパークを立ち上げた時に寄付いただいた吉野材の看板も年季がはいつてきました。

応援してくださるたくさんの方に改めて感謝です。



受付の様子。

体調を確認し、ソーシャルディスタンスを呼びかけます。

名簿を見て「〇〇ちゃん来てる！」と歓声上がることもしばしば。小学校進学で校区が離れ離れになった旧友との再会シーンも。さながら同窓会。



プレイリーダーの古川さんによるネイチャーゲーム「うさぎかくれんぼ」を2回開催し、2回とも大好評。



今回のコラボ企画は、「つくる暮らしの会」さんの【草木染め】

受付開始後すぐに満席となる人気ぶり！

内容の詳細はつくる暮らしの会さんの報告をご覧ください。

(写真：まちづくり政策課の東條さん)



草木染めの空き時間に合わせておやつタイム。

今回のおやつは、焼き芋と五平餅。

五平餅は直火で炊きたてのもち米を各自ビニールでコネコネしてもらい、フィールド内の竹で作った串に刺して焼きます。

砂糖醤油の香ばしい香りがフィールド中に漂います。



ホクホクの焼き芋。甘くて美味しい。  
(写真：東條さん)



おやつを食べている間に、草木染めのハンカチが完成！  
フィールド内に自生しているビワの葉で染めています。  
とっても優しい色が出ています。



プレーパークの南エリアと北エリアをつなぐ手作り感たっぷりの橋。  
子どもたちはここを飛んだり走ったりしながら渡るのが大好き。  
今回は池に水がなかったけれど、水がある時期は少しだけスリリングなのです。



足りない道具はフィールド内の竹などを切り出して作ります。  
そんな大人の背中を見て、子どもたちも真似をします。  
(写真：東條さん)



中あての枠をどうやって描くか考えるのも遊びのうち。  
フィールド内の植物を使って上手な枠が描かれています。  
子どもたちが大好きな中あてや鬼ごっこといった遊びは、自然とソーシャルディスタンスが保てます！

以上、いかるが子どもの遊び場づくりの会とつくる暮らしの会とのコラボ開催による 12 月の斑鳩プレーパークの報告でした。

ボランティアスタッフのみなさま、そしてお忙しいなか駆けつけてくださった生涯学習課・まちづくり政策課のご担当者さま、ありがとうございました！

# いかるが子どもの遊び場づくりの会

## 全体を通しての課題

### ① 多様な開催場所の確保

:現在のところ、東洋シールキャンプ場のみで開催しているが、他にも、例えば、野山など自然のスペースも今後活用したい。

### ② スタッフ不足

:受付やワークショップ対応のスタッフに加えて、目の行き届きにくい危険エリアの見守りスタッフなども必要となる。プレーパーク開催当日のみのスタッフでもありがたい。

この点、チラシや広報での呼びかけは効果が薄いことがわかった。

### ③ スタッフの教育充実

:特に、蜂刺されなどの事故に対する応急処置の訓練が必要。

## 担当課との連携内容

### ① 広報活動

### ② 開催場所の選定

### ③ 斑鳩の子どもたちの健全育成

以上です

ありがとうございました！

## 斑鳩町 担当課からのコメント

本町では次代を担う子どもたちの健全な育成に向けた環境づくりをすすめており、自然のなかでの活動を体験できる機会を増やす必要があると考える中、本事業は子どもたちが自発的に遊ぶことができる場として機能していると考えます。

3年目となった活動提案事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止や熱中症対策に努めながら2回のプレーパークを開催され参加者も多数あり、子どもたちの自然体験活動は着実に広がっていると感じることができます。

自立後も事業のさらなる充実に向けて、活動を継続していただきたいと思えます。

斑鳩町教育委員会事務局生涯学習課